

『地域循環共生圏の創造』について

「地域循環共生圏」とは

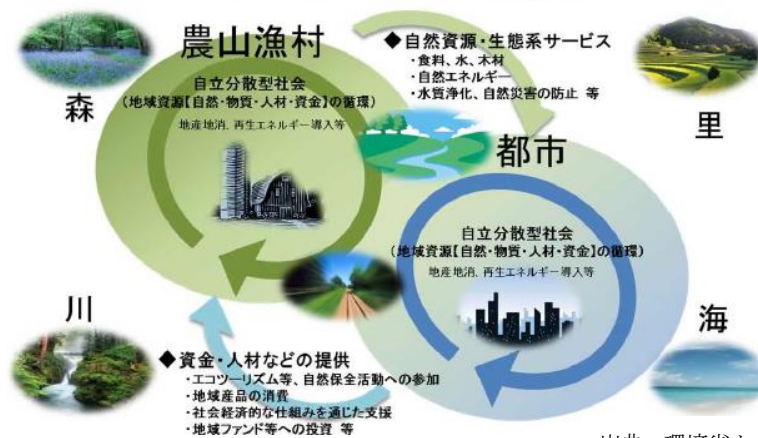
平成30（2018）年4月に閣議決定された国の「第五次環境基本計画」では、目指すべき持続可能な社会の姿の一つとして、「地域循環共生圏」の創造を掲げています。

「地域循環共生圏」とは、各地域が有する自然資源、生態系サービス、資金・人材などを活かして、自立・分散型の社会を形成しながらも、地域の特性に応じて地域資源を補完し支えあう考え方のことです。

「地域循環共生圏」の創造に向けて、「SDGs の考え方も活用し、環境・経済・社会の統合的向上を具体化する」ことを掲げ、環境政策を契機に、あらゆる観点からイノベーションを創出し、経済、地域、国際などに関する諸課題の同時解決と将来にわたって質の高い生活をもたらす「新たな成長」につなげていくとしています。

地域循環共生圏

- 各地域がその特性を生かした強みを発揮
- 地域資源を活かし、**自立・分散型の社会**を形成
- 地域の特性に応じて補完し、**支え合う**



出典：環境省ホームページ

議論のポイント

第6次計画では、県内の豊かな自然や水辺、農村環境、再生可能エネルギーなど豊富な資源を活かしつつ、地域が抱える経済や社会に関する諸課題の同時解決と新たな成長を目指す『地域循環共生圏の創造』を、目指すべき姿として盛り込むことを考えています。

新型コロナウイルスの影響によりライフスタイルの見直しや自立・分散型社会への移行が進むなか、この機会を地域循環共生圏の推進の契機と捉え、県や市町村・各主体の取組みを進めるためにはどのような方策をとることが考えられるでしょうか。

なお、『地域循環共生圏の創造』という表現は、県民の方に広く理解していただくには少々難解で親しみ辛いことから、この表現に代わる分かりやすい表現が必要と考えております。

地域循環共生圏の事例

地域	団体	概要
郡上市	郡上市地域共生圏協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・再エネ事業で創出した利益を原資とし、社会事業（地域課題を解決する事業）を支える。 ・地域外へのお金の流出を止めるため、デジタル地域通貨の導入を目指し、住民、観光客の移動情報を地域内の移動の利便向上に役立てる。 ・地域の企業や金融機関、市民団体などを対象とした勉強会を開催する。
美濃加茂市	美濃加茂市	<ul style="list-style-type: none"> ・広葉樹「アベマキ」を活用し製品化することで、持続可能な里山に再生する。 ・整備後の里山空間を「人が入る里山」に演出して観光資源として活用。 ・更新伐により生物多様性、CO2の吸収、水源地など公益的機能を高めるとともに、企業や学校と連携し、里山を学び舎として担い手を育成する。
岩手県北岩手地域9自治体	特定非営利活動法人 仕事人倶楽部	<ul style="list-style-type: none"> ・北岩手の9自治体と横浜市が協定を締結し、食材・自然・再生可能エネルギーなど北岩手の「森里川海」の豊富な地域資源を活用し、人口減少・少子高齢化など地域の課題を解決する。
三重県尾鷲市	おわせ SEA モデル協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・中部電力(株)の尾鷲三田火力発電所の跡地を「新たなエネルギー」と「豊かな自然の力」で、産業、観光、市民サービスが融合した新たな拠点として活用。 ・地域のエネルギーを一次産業に供給。地域の雇用や物産を産み、訪問客に魅力的なサービスを開発。
岡山県真庭市	真庭市	<ul style="list-style-type: none"> ・森林資源を木質バイオマス発電の燃料用チップとして利用。木材やエネルギーの振興から好循環を生み出す。 ・「真庭里海米」を新たなブランドとして構築し、地域内に循環。 ・様々な関係者とプラットフォームを構築し、地域内外の資源を活用。